

平成 27 年度第 2 回木更津市郷土博物館金のすず協議会会議録

- 1 日 時 平成 27 年 1 月 4 日 (火) 午後 1 時 30 分～ 4 時
- 2 場 所 木更津市郷土博物館 金のすず 多目的室
- 3 出席委員 委員長 中村哲委員長
委 員 藤浪弘美委員、圓谷加陽子委員、関口明委員
高橋めぐみ委員 (荻野敬次委員欠席)
- 4 出席職員 今関文化課長、石井館長、半澤副館長、稲葉副主幹、伴主査、
井上主査、多田主事
- 5 傍聴人数 0 名
- 6 議 事
 - (1) 平成 27 年度上半期事業報告について
 - (2) 平成 27 年度下半期事業計画について
 - (3) 平成 28 年度事業計画について
 - (4) その他
- 7 企画展見学 平成 27 年度出土遺物公開事業「館山道の遺跡」はるかなる西上総
の歴史
- 8 議事内容

事務局(稲葉)： それでは、ただ今より、平成 27 年度第 2 回木更津市郷土博物館金の
すず協議会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

事務局(稲葉)： 本日は荻野委員がまだみえておられませんが、木更津市郷土博物館金
のすず協議会運営規則第 8 条により、委員の半数以上が出席いただいております
ので、本会議は成立いたします。

また、「木更津市審議会等の会議公開に関する条例第 3 条」に基づき、本会議
は一般公開となっておりますが、傍聴人は 0 人です。

それでは、会議開催にあたり、木更津市郷土博物館金のすず協議会の中村委員
長に、ご挨拶をお願いいたします。

中村委員長： ～挨拶～

事務局(稲葉)： ありがとうございます。続きまして、郷土博物館館長石井良幸より
皆さまにご挨拶申し上げます。

石井館長： ～挨拶～

事務局(稲葉)： それでは、会議次第によりまして議事に入らせていただきますが、運
営規則により中村委員長に議長をお願いいたします。

中村委員長： それでは、第一番目として報告、「平成 27 年度上半期事業報告」につい
て事務局の方からご説明をお願いします。

事務局(半澤)： ～平成 27 年度上半期事業報告を説明～

中村委員長： 有り難うございます。先生方、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

藤浪副委員長： 特別質問は無いけど、半年間に大変な行事やってるんですね。すごいすごい。

関口委員： 一つよろしいですか。展示関係事業の2番、3番で、企画展それから特別展の入館者が3,800人とか4,100人とか入っていますけれども、この人数はどうなんでしょうか。今までと比べてかなり多くなっていると捉えても良いのでしょうか。その辺を教えていただけますか。

事務局(半澤)： 企画展については、だいたい2,500人から3,000人入ればいい方だと思っております。「請西藩林家が遺したモノ」については、3,812人でございますので、かなりの人数入っていただいたというふうに思っております。それから、特別展「昭和20年の木更津」ですが、この特別展については4,138人でございますので、かなり多くの入館者があったと思っております。

関口委員： 有り難うございました。

中村委員長： 昨年ぐらいまでは2万人ぐらいですか、年間で。

石井館長： 入館者は1万5,000人弱です。

中村委員長： 今年も、2万人いきそうですか。よく2万人の壁って言うんですよ。

石井館長： ただ、今年も8月1日から10月12日までの特別展が戦後70年ということで、普段入館なさらない層が大分入っていただいて、特にファミリー層の人たちの入館が多かったというふうに捉えています。かいして65歳以上の無料の方が当館非常に多いのですが、この特別展については入館料を払える、いわゆる一般世代という若い世代の方の入館が、前年と比べたら多かったのかなというような印象でございます。

中村委員長： ここ数年見ていると、何か入りそうとか、大きな展覧会が決まってくるような、ちょっとイメージ的にするんですけどね。請西藩に頼りっきりとか。せつかく、こんなに自然も、歴史も豊かな木更津ですし、新たなネタはありませんか。よく言っているように国宝とか、新たな人をファンに育てるような、方向性も必要なんじゃないかなと思います。タネ切れになりますよ。タネ切れになって、手のひら返されると、二度と来ないですね、そういう人っていうのは、期待して裏切られたっていうような感じです。だからもうちょっと、頑張ってください。非常にいい線いっているんですけど、もうひと頑張りすると、財産がある木更津市ですから、乗り越えられるんじゃないかなという気がしています。そのためには、さっき言った国宝化とか天然記念物、特別天然記念物とかね、歴博とか国の判断を待っていたら絶対進まない。彼らは5年、10年平気で言ってきますからね。だから、文化課と共同して、研究は研究、手続き

は手続きでどんどん出して、意に満たない進達書類でもいいから、文化庁にぶつけた方がいいです。向こうが言ってきたものを乗り越えていくと、そうすると、半分ぐらいまで、乗り越えられますから。基本的には盤州干潟も金鈴塚古墳も OK しているんですから。国宝にするという手続き上の問題は、行政上の問題だから、そこは、歴博の言いなり、文化庁の言いなりになる必要はないのではないかと思います。というのは私もいろいろやってきた中で、最近でいうと、佐原囃子は、国指定で京都のとどう違うんだとか、高山の獅子どう違うんだとかね、10年20年かかるよなんて平気で言われちゃったんですよ。あれやれ、これやれと。だけれども、がんがん、がんがんやって、もちろん必要とあらば政治家にお願いしても良いし、そういうような形でいったら、うんと短い期間で国指定になりましたから。国の方は100点満点の答案ばかり要求しているけど、現状というのは100万人が指定都市、あれだって50万人くらいいけば、指定してくれちゃうのと同じでね、非常に、そういうふうに行っていると、非常に熱心だとか、見通しが立ったということになれば、うんと短くなりますから。そういう形で新しいテーマをガツガツぶつけていけば良いのです。そういうものを外の市民にも見えるようにしておくんですよ。学校にも見える。そうすると金のすず頑張っているとか思ってくると、じゃあ、私も人肌脱ごうって、そういう形になってくるんですね。だから準備も大変ですよ、これだけの事業やって、これだけだって、全国の博物館に比べたらね、異常ですよ、100点満点中、私だったら200点ぐらいつけますけどね。ただ、ここで将来私等の世代じゃない次ぎの世代、孫の世代に何か大きな財産を残そうと思ったら、今が必要なんじゃないかと思います。今の時代にうまくいかなくても、次の時代に繋がるんですね。その辺は私も新住民でここに来て何十年も経つんだけど、新な、誇りになるものを全国発信していただければ有難いな。今一番金のかからない、ある意味かからないでやれるのは、文化なんですね。文化は、誰でも NO っていう人いないんです。ただ一番最初に予算を切ったり、色々いちゃもんつけられるのも文化なんですけど。だけど、文化はそういう意味では広くて強いんですね。だけど、一番弱いという部分もある。その辺を大変ですけど、よろしくお願ひします。

石井館長： 委員長からお話がありましたとおり、お預かりしている博物館としては、多分、委員の皆さんから、今日もそういうお話ができるんじゃないかということ想定しまして、担当の方もお見えいただいております。収蔵している館と文化課が協力しながら、一刻も早い国宝化に向けてということで進めています。市議会では通年何回か、質問いただいておりますので、その研究については今委員長のおっしゃられた通り、歴博も進めております。あとは、近年の松江城の国宝化の経緯を見ても、学術的な部分とあるいはもう一方では市民の声だとかですね、行政の大きな声のあげ方とか陳情の仕方とかいろんな方法があ

ろうかと思しますので、その辺、今後とも研究して参りたいと思います。

中村委員長： 今、チャンスなんですよ。県文化財課長さんに永沼さん、木更津に派遣になっていた永沼さんが課長になっています。彼には話しは通っています。担当になっている〇〇さんとかね、あの辺も木更津の出身ですしね、いるんです。それから、里見城もそうだし、千葉城も、全部国指定にしたんですよ。そういうのもうありますし、とにかく、彼をつつく、つুকって言った言葉悪いですけど、今チャンスなんですよ。その辺は、私もよく知っていますからね。何かあればやりますよ。もう内々には、話はしてあるんです。だから稲葉さんもしつこくお願いして下さい。考古学関係の方は序列が厳しいんだよね。どこの大学のどここの時代の誰々さんって決まっています、違う人が言うと、全然進まないんですよ。あれが非常に良くないと僕は思っているんですけど。だからそういうような形じゃなくて、文化はみんなの財産だから、考古学の特殊な力関係で、やらないほうがいいですよ。どうなの。考古学ってそういうのすごく強いでしょ。

事務局(稲葉)： そうですね。最近はかなり崩れてきたとも聞いているんですが、僕らの時代はやはり……。

中村委員長： そうでしょう。大学と、時代とね。そんなの文化全体に広げてね、他に影響させられたら一番損しちゃうのは市民だし、国民なんだから。もっとやれるチャンスの時にやらなくちゃいけないんだよね。毎回毎回同じこと言ってみんなに迷惑かけていると思うけど、本当やれる時やっとかないと、文化っていうのはいつの間にか消えちゃうから。ひとつよろしくお願いします。博物館のことじゃないですけどね。これは行政、県も、国もからめてのことですから、一体型になって、金のすずだけががむしゃらになっても、できることではないので、その辺をお願いします。私のところが長すぎて、すいませんけど。では、これはそういうことで、報告はよろしいですか。

中村委員長： それでは続きまして、議題27年度下半期の事業計画、それと短いですが、28年度の事業計画両方事務局ご説明をお願いします。

事務局(半澤)： ～ 平成27年度下半期事業計画を説明 ～
～ 平成28年度事業計画(案)を説明 ～
～ 特別展について、井上主査が説明 ～
～ 金鈴塚古墳共同研究について、稲葉副主幹が説明 ～

中村委員長： 有り難うございます。それでは先生方、ご質問、ご意見ありましたらどうぞお願いします。

藤浪委員： 金鈴塚古墳の出土品、今まで、金のすずや刀剣とか、戻ってきてるんですけど、まだ向こうには相当預けてあるんですか。

事務局(稲葉)： 分析をお願いしていた国立歴史民俗博物館に、一時期全部持っていつ

て分析していただいたのですが、その資料については全点当館の方に戻ってきております。

中村委員長：他に何かありますか。以前人気があった土器の製作とか、ああいうのはやらないのですか、壺を焼いたり。

事務局(稲葉)：今年には行ないませんでした。

中村委員長：あれ、人気があるんでしょう。

事務局(稲葉)：そうですね。

事務局(井上)：実は、土器サークルさんがずっと前から土器づくりを盛んにやっけてらして、ここ数年ですと、木更津高校に郷土サークルがあって、そちらの学生さんと一緒に作ったりもしました。土器を実際焼くのではなくて、その土器を使って、例えば先ほどお話したどんぐりを煮たりとか、そういったものも含めてやっておりました。その辺は結構確かにおもしろかったです。

中村委員長：本当にいいと思います。美術品としてね、鑑賞したりする人がいるんです。陶器がものすごくブームでしょう。公民館でやっているのは満員で入れないんだよね。また、その応用として、食料を提供とか、堅穴の住居を作ってその中で住わして、そこで炊いて、料理食べたりしたっていいとか、いろいろ発展的にいけるんです。人気あるのは大変です。他でやっているところで、すごく人気あるのは「加曽利」なんかものすごい。こんなでかい壺がごろごろあって、私なんか欲しいって言ってもくれないです。それを自分で焼けてたらいいのですが。

上総に上総井戸掘り道具があり、国指定の(重要文化財)がある。せっかく良い事業があるのに、袖ヶ浦にとられちゃうし。大多喜の風の学校、千葉大の先生が行なって、外国の人を呼んできて、水不足の東南アジアの人たちが井戸を掘ったり、中近東に住んでいる人がこの技術で水が出たとかね、そういう良い題材いっぱいあるのに、こここのところをやらなくなっていますが、もったいないなと思っているんだけど、どうなのですか。

事務局(稲葉)：事業等については、また検討していきたいなとは思っています。

中村委員長：これ事業見てると、障がい者対策って何か出てるの。考えてる。障がい者の人たちと何かやろうとか。セラピー的に何かやろうとか。これだけフィールドが残ってるんだから、セラピー的なこととか。昔、私がまた取り留めも無いこと言って、スポーツセラピーをあそこでやればいなんて言ったことあるんだけど。そういうホースが無理なら、例えば、薬草を作って、昔からある漢方の作り方とか、そういうのをあそこで彼らに売ってもらったって良いし。友の会とか。そういうのを次々と奥行き作って、今回はこうだあだっていうふうな形で、やるだけのことを全部やっていけば結構いろんなこともあるし。これだけやって一つ感じてたのは、障がい者教育が抜けてるのではないかと、気がちょっとしました。

博物館も色々なことやっておいた方が良さそうな気がする。ただ大変だよ。大変は大変。だから、そういうふうなどをこの館だけじゃなくて、県だとか学校だとか色々なところにSOS出して、それが提携団体になったりしてね。地域興しの拠点になったりするんだよね。だからそういう意味で、とにかく、あれもこれも全部撃っちゃえば良いんだよ、弾。どれか、100発撃って一発残ればいいみたいなスタイルで、どんどんやっていかないと、今どんどん時代が進んでるから、取り残されちゃいます。博物館が今一番、予算も無い、人もいなくて、大変なの分かるけど、だけど逆手にとって、じゃあアイデアで色々なことやっちゃわないと。何か出来るんじゃないかなって気がしました。ひとつよろしくお願いします。言いたい放題なこと言って申し訳ないです。まあ文化ですから、結局何も無いところから、何かを考え出してやらないことには次に繋がりませんので、ひとつよろしくお願いできればと思います。

藤浪副委員長： この前やった東京の「請西藩林家が遺したモノ」、あれはもう資料を全部返したんですか？

事務局(稲葉)： 現在台帳を整理していきまして、基本の表題は全部一応撮影しました。ただ、今、中を1枚1枚写真に撮っておりますので、それは市民ボランティア方の協力を得ながらやっているの、まだ完成にはいかないんですが、一応、林さんの方にはここまで出来ましたということは、1回電子メールで送りました。

藤浪副委員長： それは、何時頃いったんですか。

事務局(稲葉)： それは、今年の2月か3月です。

藤浪副委員長： 2月か3月。いや、私も奥さんとはふた月に1回くらい電話で話しますが、長男が外国におり、心配してるらしいんですよ。奥さんはこの博物館へ来て知ってるから良いけど、たまたま私も間に入り責任があるから、長男が心配しているので、今こういう状態だから、いつ頃返すとかっていうことを言った方が良くと思います。書面でも。

事務局(稲葉)： 分かりました。

藤浪副委員長： 女所帯だから、請求じゃなくて、尋ねたいときも出来ないらしいからね。2月では、もう半年以上も経ってるんだから。

事務局(稲葉)： 分かりました。

藤浪副委員長： やっぱり長男がちょいちょい電話を寄越すらしいです。

中村委員長： ひとつよろしくお願いします。でも、私なんか見ると考古が一番そういうことしっかりしてると思います。他の分野は何だか無しのつぶてだよな。ちゃんと進んでるのか、進んでないのか、ちゃんと保管してるのか、ちゃんと台帳に整理してるのか。考古は、出てきたら数も多いけど、職員も多いから、全体から見れば少ないんだろうけど、しっかりしてる方だと思います、それで

も藤浪先生の方とか林家の方から、そういうようなクエスチョンマークがついちやうから。

事務局(稲葉)： 一応今は、3月一杯までお借りするという契約というか、お約束という書類のやり取りしています。

中村委員長： 結局それキャッチボールしてれば、そこまで出来なければまた延長するとか、そういうふうにいけるけど、キャッチボールしてないから、こうパッといくとあれ?って思っちゃうと、じゃあもう契約しないとか、延長しないとかになってしまうから、そこだよ。ちゃんとやってるんだからさ。他の分野も、そういう形でシステムを導入して、もしお願い出来ればボランティアを使う等それが人材育成にもなるから、ひとつよろしくお願いします。

藤浪副委員長： 私も木更津市の博物館だから、奥さん、心配するんじゃないよって言って、それで了解してもらっていますから。

関口委員： 9月15日に、真舟小学校出前授業でやってますよね。それこそ委員長がおっしゃったように、もし土器作りとか、メニューが勾玉だけじゃなくて、メニューが広がったならば、きっと私は小学校はどこか出前授業なり、ここへ来てそういう土器作りとかは、総合的な学習として、興味を持つ学校が出てくると思います。可能であればご検討いただければなと思います。

事務局(半澤)： 検討してみます。土器サークルと相談してみます。

中村委員長： こっちは言い放しだから申し訳ないけど、ただ、もったいないよ。

金鈴塚古墳出土品の国宝化については、それをやってくれる応援団がいなくて出来ないのもよくわかっていますから。とにかく口火切っとけば、応援団は何もかも100点満点でよいドンってわけにはいかないから、最初は10点でも20点でもいいからスタートしてしまえばいいんだよ。そうすれば、だんだん積んでくると50点、60点ってなっていくから。言いたい放題のこと言って申し訳ないけど。

中村委員長： 他にございませんでしたら、その他ございますか。事務局は。

事務局(半澤)： 特にございません。

中村委員長： はい。それでは、協議会はこれで閉めます。事務局の方へお返ししますので、よろしくをお願いします。

事務局(稲葉)： 本日は、委員の皆さまにはご多忙のところ、ご出席いただきましてありがとうございます。

今後とも当館の博物館運營業務につきましては、よろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

これをもちまして、平成27年度第2回木更津市郷土博物館 金のすず協議会を閉会いたします。

なお、ただいま当館では、先ほども話がありましたが、企画展平成27年度

出土遺物公開事業「館山道の遺跡展」「はるかなる西上総の歴史」を開催しております。お時間のある委員の皆さまには、これから担当がご案内いたしますので、展示室は階段下りて2階になります。よろしく願いいたします。それでは以上です。

終了